



尚絅学院大学

復興大学

～災害ボランティアステーション～

2019_[R1]年度 活動報告

令和元年度 復興大学 災害ボランティアステーション事業（尚絅学院大学）

1 事業成果概要

本事業は、宮城の創造的復興を担う人材を育成する事業の一環として、学生ボランティアを持続可能な社会資源として高めていくこととし、主に以下の二つの目的・課題に寄与した。

- (1) 東日本大震災から9年目を迎え、被災地の住環境の変化に伴う「コミュニティ再生」や被災者の自立を妨げない支援のあり方が継続した課題となっている。平成30年度までの取り組みに引き続き、このことに対して宮城県内の学生を中心に全国の学生ボランティアが被災地に関わり続け、ボランティアや復興に寄与する人材の育成に貢献することに取り組んできた。宮城県内において、復興ボランティアに関わる人数として、のべ666名(2020[R2].3.31現在)が参加した。
- (2) 主に宮城県名取市内での学生ボランティア活動を行うとともに、大学間連携ボランティアネットワークを礎に、県内外の学生が共に宮城の震災復興にかかわり、共に学ぶ機会を提供。震災当時に小中学生だった大学生が「あの日あの時の学び直し」を行い、「大学生に今できることは何か」を考え、「次の災害に備える」ための心構えやスキルを身につけることに取り組んできた。
具体的には、5月、7月、8月、9月、11月に「大学間連携災害復興 合同ボランティア学習会」を実施し、県内外12大学2高校1団体のべ297名が参加した。また、昨年に引き続き11月には兵庫を訪問するプログラム「大学間連携災害復興 神戸合同ボランティア学習会」を実施。阪神淡路大震災とその後の復興活動、現在の取組について学び宮城と兵庫の大学生2大学1団体のべ54名が参加した。

2 主な事業内容

- (1) 大学間連携災害復興ボランティア活動／4月～3月の通年
年間を通しての県内におけるボランティア活動で、学都仙台コンソーシアム加盟大学学生による協働ボランティア活動。復興公営住宅等での市民交流サロン活動を主軸に県内・全国の学生と共に、変化する被災地のコミュニティ再生支援に取り組んだ。(活動地域は主に名取市)
- (2) 大学間連携災害復興 ボランティア学習会／5月・11月
県内の学生が被災地踏査、講演による学習、復興公営住宅でのボランティア活動、意見交換会等を行い、「被災地の今」を学び今後の支援活動について考えた。(活動地域：名取市)
- (3) 大学間連携災害復興 夏のボランティア合同学習会／7月～9月
県内・全国の学生が被災地踏査、講演による学習、復興公営住宅でのボランティア活動、意見交換会等を行い、「被災地の今」を学び今後の支援活動について考えた。(活動地域：名取市)
- (4) 大学間連携災害復興 神戸ボランティア合同学習会／11月
県内・全国の学生が被災地踏査、講演による学習、ボランティア活動、意見交換会等を行う。他地域の災害(阪神・淡路大震災)について改めて学び、長期に渡る復興のあり方や防災・減災について考えた。(活動地域：兵庫県神戸市)

【尚絅学院大学】令和元年度 復興大学事業（H31.4～R2.3）

4月	21(日)	・復興公営住宅支援 1ヶ所 計2回(関上まちびらき打合せ交流会) ・関上町内会花見／参加者2名
5月	11(土) 18(土) 26(日)	・大学間連携合同ボランティア学習会(関上現地踏査・合同学習会) ／参加者66名(内、尚絅37名、東北大21名ほか) ・大学間連携夏のボランティア学習会事前研修(兵庫)／参加者2名(内、尚絅1名ほか) ・「関上地区まちびらき」ボランティア／参加者14名(内、尚絅8名、東北大2名ほか)
6月	15(土)～16(日) 23(日)	・大学間連携夏の合同ボランティア学習会事前研修 ／参加者のべ23名(内、尚絅のべ5名、大学コンソーシアムひょうご神戸のべ6名ほか) ・関上西団地住民交流会ボランティア／参加者1名
7月	21(日)	・高校・大学間連携合同ボランティア学習会(関上現地踏査・合同学習会) ／参加者21名(内、尚絅2名、高校生12名ほか)
8月	10(土) 17(土) 21(水) 24(土)～26(月)	・被災地復興ボランティア(関上復興公営住宅・こどもボランティア)／参加者11名(内、尚絅9名ほか) ・被災地復興ボランティア(関上復興公営住宅・夏祭りボランティア)／参加者3名 ・子育て支援団体「ゆりかもめ」親子サロン(関上中央町内会)／参加者2名 ・大学間連携夏の合同ボランティア活動・学習会 (復興公営住宅住民交流ボランティア・講演・活動発表・意見交換会)／参加者のべ100名 (内、尚絅のべ15名、大学コンソーシアムひょうご神戸のべ54名、東北大のべ4名ほか)
9月	9(月) 14(土)～15(日)	・大学間連携夏の合同ボランティア学習会(講演・活動発表・意見交換会) ／参加者53名(内、尚絅5名、敬愛大38名、西南学院大5名ほか) ・大学間連携夏の合同ボランティア振り返り会(兵庫)／参加者2名
10月	6(土) 12(土)～13(日) 23(水)	・名取復興文化祭(※1)／参加者5名 ・復興大学災害ボランティアステーション活動発表(台風のため中止) ・復興大学講演会 災害に強いまちづくりを考える ～グローバル編～ 「住民と行政による洪水に強いコミュニティづくり」／参加者80名(内、尚絅74名ほか)
11月	2(土)～4(月) 4(月) 10(日) 17(日)	・大学間連携災害復興 神戸ボランティア合同学習会 (各施設見学・講話・意見交換会・災害公営住宅ボランティア)／参加者(3日間)のべ54名 (内、尚絅のべ18名、西南学院大学のべ3名、大学コンソーシアムひょうご神戸のべ18名ほか) ・復興公営住宅支援(関上中央第二団地)集会所イベントボランティア／参加者1名 ・復興大学災害ボランティアステーション活動発表(仙台防災未来フォーラム) ／参加者7名(内、尚絅4名ほか) ・大学間連携合同ボランティア学習会(関上現地踏査・住民交流会・合同学習会) ／参加者57名(内、尚絅11名、東北大41名ほか)
12月	8(日) 19(木) 22(日)	・ボランティアコーディネーター研修／参加者5名 ・大学間連携合同ボランティア学習会in神戸活動報告会 ・復興公営住宅支援(関上中央第二団地)集会所イベントボランティア／参加者5名(内、尚絅4名ほか) ・台風19号被災地支援ボランティア／参加者4名
1月	16(木)～17(金) 17(金)	・神戸大学支援活動・交流意見交換会(山元町)／参加者のべ2名 ・兵庫1.17に学ぶ学習会参加(神戸市)／参加者3名
2月	16(日) 19(水)	・復興公営住宅支援(関上中央第二団地)集会所イベントボランティア／参加者3名(内、尚絅2名ほか) ・災害ボランティア養成講座／参加者11名(内、尚絅6名ほか)
3月		

(※1)名取市サポートセンターどっと。なとり(JOCA)主催

令和元年度 復興大学事業 参加人数(H31.4～R2.3)

日程	事業内容	事業 数	参加人数			
			合計	尚綱	他大学	その他
H31.4.21	復興公営住宅支援(関上中央町内会 花見)	1	2	2	0	0
R1.5.18	地域イベント支援(雄勝町小中学校 運動会)／主催:東北大学ボランティアセンター	1	9	9	0	0
R1.5.26	関上地区まちづくりイベント支援(関上中央集会所 サブ会場)	1	14	8	2	4
R1.6.23	復興公営住宅支援(関上西団地)／協力:名取市、名取市サポートセンターどっと.なとり	1	1	1	0	0
R1.8.10	復興公営住宅子ども・コミュニティ支援(関上中央町内会)	1	11	9	0	2
R1.8.17	復興公営住宅支援(関上中央集会所 夏祭り)	1	3	3	0	0
R1.8.21	復興公営住宅子ども・コミュニティ支援(関上中央集会所) ／協力:マザーウィング(名取市子育て支援施設cocol'll)	1	2	2	0	0
R1.10.5	名取復興文化祭／協力:名取市サポートセンターどっと.なとり	1	5	5	0	0
R1.11.4	復興公営住宅支援(関上中央町内会 芋煮会)	1	1	1	0	0
R1.12.22	復興公営住宅支援(関上中央団地 クリスマス会)	1	5	4	1	0
R2.2.7-8	復興公営住宅支援(神戸大学 山元町現地活動)	1	2	2	0	0
R2.2.16	復興公営住宅支援(関上中央団地 餅つき大会)	1	3	2	0	1
R1.10～R2.3	台風19号関連ボランティア活動(丸森町等)	1	4	4	0	0
	支援活動等 小計(a)	13	62	52	3	7
R1.11.10	仙台防災未来フォーラム(活動発表・紹介)	1	6	4	0	2
R1.12.14	大学間連携ボランティアシンポジウム／主催:東北学院大学(活動発表)	1	3	2	0	1
	活動報告等 小計(b)	2	9	6	0	3
R1.5.11	大学間連携 春の合同ボランティア学習会(関上現地調査・意見交換会)	1	66	37	22	7
R1.6.15～16	大学間連携 事前学習会(活動現地ヒアリング・意見交換会)大学コンソーシアムひょうご神戸	1	23	5	6	12
R1.7.21	高校・大学間連携 合同ボランティア学習会(関上現地調査・意見交換会) 尚綱学院高校・桜の聖母学園高校	1	21	2	12	7
R1.8.24	大学間連携 夏の合同ボランティア 1日目コンソーシアムひょうご神戸	1	33	6	18	9
R1.8.25	大学間連携 夏の合同ボランティア 2日目コンソーシアムひょうご神戸	1	33	5	20	8
R1.8.26	大学間連携 夏の合同ボランティア 3日目(講演・活動発表・意見交換会)コンソーシアムひょうご神戸	1	34	4	20	10
R1.9.9	大学間連携 夏の合同ボランティア【学習会】(講演・活動発表・意見交換会)敬愛大学・西南学院大学	1	53	5	43	5
R1.10.23	講演会「災害に強いまちづくりを考える～グローバル編～」	1	80	74	0	6
R1.11.17	大学間連携 合同ボランティア【学習会】(関上現地踏査・復興公営住宅支援活動)東北大学	1	57	11	41	5
R1.11.23～24	宮城招聘プログラム	1	2	2	0	0
R1.12.8	ボランティアコーディネーター検定3級 1日研修・受験	1	7	5	0	2
R2.1.16～17	神戸1.17招聘プログラム(追悼イベント参加・学習会・交流)	1	3	3	0	0
R2.2.19	災害ボランティアセンター運営サポーター養成講座(講座・被災地支援ワークショップ) ／協力:仙台市ボランティアセンター	1	11	6	1	4
R2.2.24～25	三大学合同気仙沼・陸前高田ツアー	1	4	4	0	0
	学習会(宮城県・受入)小計(c)	14	427	169	183	75
R1.5.18	大学コンソーシアムひょうご神戸 学生災害ボランティアネットワーク事業 第1回研修会	1	52	1	50	1
R1.9.14～15	大学コンソーシアムひょうご神戸 学生災害ボランティアネットワーク事業 振り返りの会	1	52	2	50	0
R1.11.2	大学間連携 合同学習会 神戸訪問プログラム2019 1日目(現地活動・意見交換会) 大学コンソーシアムひょうご神戸、神戸大学	1	23	6	14	3
R1.11.3	大学間連携 合同学習会 神戸訪問プログラム2019 2日目(施設視察・講話・フィールドワーク) 大学コンソーシアムひょうご神戸	1	24	6	11	7
R1.11.4	大学間連携 合同学習会 神戸訪問プログラム2019 3日目(施設視察・講話・意見交換会) 大学コンソーシアムひょうご神戸	1	17	6	6	5
	学習会(他県・訪問)小計(d)	5	168	21	131	16
	合 計 (a + b + c + d)	34	666	248	317	101

事業報告

事業名	大学間連携 合同ボランティア学習会(春のバスツアー合同学習会)
実施日	令和元年5月11日(土)
実施場所	名取市関上地区・尚絅学院大学
目的	①被災地(名取市関上)を視察し、語り部のお話を聞くことで「あの日あの時」と震災から8年後の状況を知る。 ②大学生に求められる支援活動のあり方(地元・遠方／直後・長期)を考える。
内容	東日本大震災時に津波の被害が大きかった関上地区を訪問し、被害の様子や震災後の変化を視察した上で現地の語り部のお話を聞いた。学生間での意見交換会では、「自分たちには何ができるか」についてそれぞれの立場で考えた。
参加者	66名(内、尚絅37名、東北大21名、福島大1名 ほか)



事業名	高校・大学間連携 合同ボランティア学習会(関上現地踏査・合同学習会)
実施日	令和元年7月21日(日)
実施場所	名取市関上地区・尚絅学院大学 地域連携交流プラザ
目的	東日本大震災から8年が経過し、あらためてあの日あの時を学び直し、さらに現在の被災地の課題を知る機会を提供。震災当時小学校低学年だった高校生との合同学習会を行うことで、自分たちにできることや、震災の経験や教訓を次世代に伝えることについても考える。
内容	東日本大震災時に津波の被害が大きかった関上地区を訪問し、被害の様子や震災後の変化を直接目にした。大学生がバス内でのガイドを務め、また現地の語り部のお話を聞くことで語り継ぐことの大切さを学んだ。大学生の活動紹介や学生間ワークショップでは、宮城県・福島県の状況の違い、さらにはインドネシアからのゲストの意見も踏まえながら意見交換を行った。
参加者	21名(内、尚絅学院大学2名、尚絅学院高校7名、桜の聖母学院高校(福島)5名ほか)



事業名	大学間連携 夏の合同ボランティア活動・学習会 「被災地を知り、大学生ができることを考える」
実施日	令和元年8月24日(土)～26日(月)
実施場所	【事前ヒアリング】6月15日～16日 名取市関上地区、尚絅学院大学 【本活動】8月24日～25日 岩沼市玉浦西地区、名取市関上、地域連携交流プラザ 8月26日 尚絅学院大学
全体目的と活動のねらい	目的／東日本大震災から8年が経過し、あらためてあの日あの時を学び直し、さらに現在の被災地の課題を知る機会を提供。自分たちにできることや、震災の経験や教訓を次世代に伝えることについても考える。 ねらい／東日本大震災から8年が経過したことを機に、あらためてあの日あの時を学び直し、さらに現在の被災地(名取市関上地区)の課題や、他の地区のまちづくりの違いを知る機会とする。また大学生に求められる支援のあり方と、今後起こり得る災害や被災地への関わりを考える。特に、兵庫県の大学生とも合同で活動・意見交換を行うことで、それぞれ自分が住む地域の課題や次に起こる災害後のまちづくりを考える。
内 容	【事前ヒアリング】 6月15日(土)：関上地区現地踏査 6月16日(日)：①関上の住民さんとの意見交換会 ②講話「支援者間の連携と課題」(尚絅学院大学連携交流課課長 佐々木 真理) ③学生企画会議 参 加 者：15日／11名(内、尚絅2名、大学コンソーシアムひょうご神戸3名ほか) 16日／12名(内、尚絅3名、大学コンソーシアムひょうご神戸3名ほか) 【本活動】 [Ⅰ]8月24日(土) 現地踏査と学習会① 実施場所：岩沼市玉浦西地区、名取市関上地区 内 容：①岩沼市玉浦西地区 集団移転した地区の現地踏査 ②名取市関上地区 現地踏査と語り部のお話 ③振り返りとまとめ 目 的：震災から8年以上が経過し、5月にはまちびらきも行われた関上地区と、集団移転によるまちづくりが行われた岩沼市玉浦西地区。震災当時の状況や被災地の変化や地域による違いを知り、現在の被災地の課題を知る。 参 加 者：33名(内、尚絅6名、大学コンソーシアムひょうご神戸18名ほか) [Ⅱ]8月25日(日) 住民さんとの交流会 実施場所：尚絅学院大学 地域連携交流プラザ、関上中央集会所 内 容：①交流会準備 ②住民さんとの交流会 ③振り返りとまとめ 目 的：関上中央第二団地では、町内会の結成や地域住民の主体的な地域づくりが始まりつつある。新しいコミュニティを形成しながら、多様な世代・住民の参加を促すきっかけとして、住民さんと共に交流会を実施する。 参 加 者：33名(内、尚絅5名、大学コンソーシアムひょうご神戸18名、東北大2名ほか) [Ⅲ]8月26日(月) 合同学習会 実施場所：尚絅学院大学 5D教室 目 的：各地域・大学でのボランティア活動や、他地域の災害(特に阪神淡路大震災)について知り、2日間の活動を踏まえた上で、復興とは何か、震災伝承や大学生として何ができるかを共に考え、意見交換することで学びを深める。 内 容：①各大学活動発表 ②阪神淡路大震災の講話(ひょうごボランタリープラザ 前所長代理 鬼本 英太郎) ③岩沼市玉浦西地区の復興への取り組みについての講話 (尚絅学院大学 総合人間科学系 理工・自然部門 阿留多伎 真人) ④学生間ワークショップと振り返り 参 加 者：34名(うち、尚絅4名、大学コンソーシアムひょうご神戸18名、東北大学2名ほか)



※詳細はP07～P08

事業名	大学間連携 夏の合同ボランティア学習会
実施日	令和元年9月9日(月)
実施場所	尚絅学院大学5D教室
参加大学	敬愛大学(千葉)、西南学院大学(福岡)、尚絅学院大学
目的	①東日本大震災から8年の経過を機にあらためて「あの日あの時」について知り、学びや課題を共有する ②大学生に求められる支援活動のあり方(地元・遠方/直後・長期)、今後各地で起こり得る災害や被災地への関わり方を考える。
内容	各大学の活動報告、支援活動についての講話を聞き、現在の状況を共有し、その上で一人ひとりが「支援とはなにか」、「大学生にできることは何か」を考え、意見交換を行った。
参加者	53名(内、尚絅5名、敬愛大38名、西南学院大5名ほか)



大学間連携災害復興 夏のボランティア合同学習会

8月24日(土)～26日(月)の3日間、大学コンソーシアムひょうご神戸、尚絅学院大学のボランティアチームTASKI、東北大学の学生で合同ボランティア活動と学習会を行いました。

1日目:8月24日(土)

岩沼市玉浦西地区& 名取市閑上地区の現地踏査

岩沼市玉浦西地区では、本学の阿留多伎教授により、震災の津波により甚大な被害を受けた岩沼市の沿岸6地区の防災集団移転について、説明がありました。岩沼市の現地踏査はTASKIの学生にとっても初めてでしたが、これまで訪問していた閑上とは異なる区画整備の様子や、地区ごとに違う公園づくりの工夫などを知ることができました。

閑上に向かうバス車内ではTASKIの学生が被災地についてガイドし、さらに日和山、震災メモリアル公園、閑上中央集会所において講師の長沼さんから、震災当時の様子や新しいまちづくりの様子についてお話をいただきました。

長沼さんからの講話

午後はイオンモール名取の地域連携交流プラザに移動し、長沼さんより新しい閑上のまちづくりの様子について講話をしていただきました。

また、震災当初からボランティア活動を行いTASKIの立ち上げに関わった卒業生から当時の活動内容なども聞くことができました。



2日目:8月25日(日)

閑上地区で 住民さんと交流会

閑上中央集会所をお借りし、神戸の学生と共に企画した「みんなの閑上交流会」を行いました。新しいまちづくりがスタートした閑上では、春に町内会が結成されたばかりです。そのため新たに移り住んだ住民さんなどにも声をかけながら、住民さん同士の交流や地域づくりが進められています。学生も住民さんと一緒に交流を楽しみながら、閑上の昔話をお聞きたり、神戸の学生が地元の話をするなど大変盛り上がりました。子どももたくさん来ており、徐々に若い世代が閑上に増えてきていることを実感しました。その日の振り返り会では、「地域のつながりが分かった」「震災当時の話を具体的に聞くことができた」といった感想が共有されました。



3日目:8月26日(月)

尚絅学院大学での 合同学習会

最終日は、尚絅学院大学にて、ひょうごボランティア前所長鬼本英太郎さんによる阪神淡路大震災に関する講話と、阿留多伎教授による岩沼市玉浦西地区の復興に関する講話を聞き、貴重な学びの機会となりました。

休憩時間を利用して、防災食を作り試食する機会も設けました。お湯だけで作ることができる点や、様々な味があり食べやすいものでした。次にいつ起こるかわからない災害に備えて、防災・備蓄について考える時間となりました。

また午後は、学生企画によるワークショップを実施しました。3日間の活動や学習会を経てそれぞれが感じたことを共有し、「復興ってなんだろう」「学生として私たちにできること」というテーマで意見交換を行いました。神戸の学生の中には、初めて宮城に来たという学生もあり、それぞれの復興やボランティアに対する様々な考えを共有することができました。



3日間 参加した 学生の感想

■大学コンソーシアムひょうご神戸

- 住民交流会が印象に残っている。震災のことなどを、住民さんの口から聞くことができ、本当に貴重な経験となった。これをしっかり伝えていきたい。
- 住民さんとの交流で子どもとずっと遊んでいたが、信頼されることによって子どもが抱えている震災の体験について教えてもらうことができ、親がしっかりと震災時に生まれていない子どもにも伝えていることを知って、伝承することの大切さ、受け入れて前向きにすすむことの重要さがわかった。
- もう一度関上に行きボランティアがしたい。そのためにも、地元でも積極的にボランティアに参加し、経験や知識を深めたい。
- 本当に参加してよかったと思った。なぜなら多くの人の考えや、感想をきいて新たな考えを自分にも取り入れることができたし、今まで知らなかった現状を知ることによって考え方は1つではないし、自分たちがやろうと思えば何でもできそうだと感じることもできた。

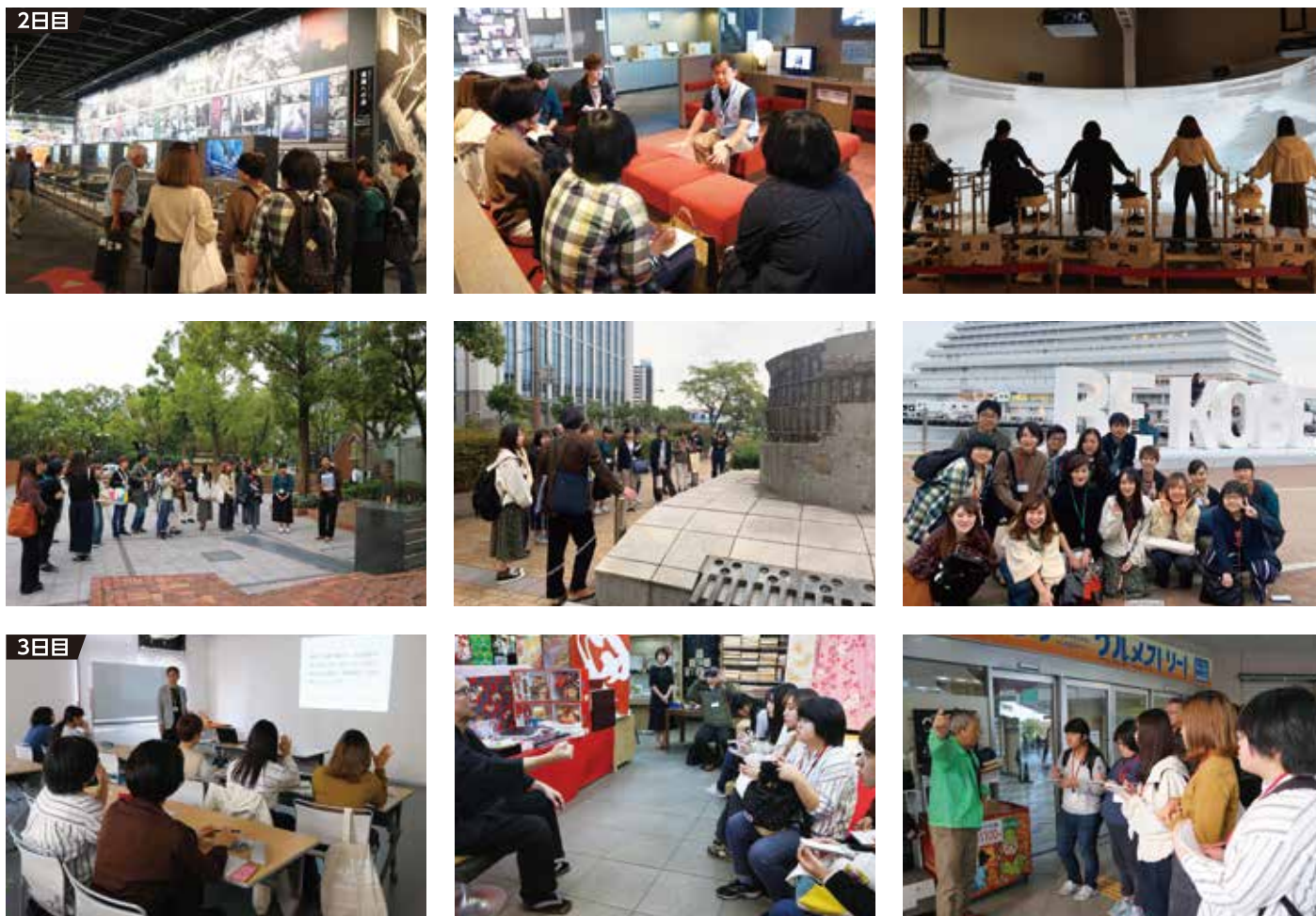


■尚絅学院大学ボランティアチームTASKI

- 県内または県外のボランティア団体との交流ミーティングなどに参加して、どんな活動を行なっているのかや、一緒にできる活動はないか話してみたい。
- 阪神淡路大震災がどのようにして起こったのかを学びたい。
- 正しい情報を知ることが大事だと感じた。震災についての情報を風化させたくない。ボランティアの本当の意義についてはしっかりと頭の片隅に置いて常に忘れずに活動したいと思った。

事業名	大学間連携災害復興 神戸ボランティア合同学習会
参加大学	大学コンソーシアムひょうご神戸(兵庫)、西南学院大学(福岡)、尚絅学院大学
実施期間	令和元年11月2日(土)～4日(月)
実施場所	11月2日(土) HAT神戸と岩屋地区の復興公営住宅にて活動 11月3日(日) 人と未来防災センター、HAT神戸 11月4日(月) 長田区、メリケンパーク、東遊園地ほか
全体目的	震災から24年が経過した兵庫県神戸市を訪問し、フィールドワークや語り部のお話を通じて、阪神淡路大震災について知るとともに、その後の復興の歩みについて学ぶ。また神戸の学生との合同活動、フィールドワーク、交流を通じて、「大学生にできることは何か」を考える機会とし、地元名取市への活動に活かす。
内 容	[Ⅰ] 11月2日(土) 現地活動、神戸大学生との意見交換会 実施場所: HAT神戸内復興公営住宅、岩屋地区復興公営住宅 内 容: ①3グループに分かれた活動 (1) 岩屋地区復興公営住宅の住民学生交流会 (2) HAT神戸内復興公営住宅の戸別訪問活動 (3) HAT神戸内地域コミュニティプラザにて自治会のお話を聞く ②神戸大学生との意見交換会 目 的: 震災から24年経過した神戸市内において、現在も活動を続けている学生と活動・交流し。他大学の取り組みや支援の課題について学ぶ。 参 加 者: 23名(内、尚絅6名、西南学院大学1名、大学コンソーシアムひょうご神戸3名、神戸大学10名ほか) [Ⅱ] 11月3日(日) 神戸市内フィールドワーク 実施場所: 人と未来防災センター、メリケンパーク、東遊園地ほか震災遺構 内 容: ①阪神淡路大震災に関する学習(語り部さんのお話と人と未来防災センターの見学) ②神戸市内の震災遺構を巡り、24年前の震災の爪痕とその後再生した町を見学する 目 的: 阪神淡路大震災とその後の復興を学び、地元の活動や防災・減災の取組について考える。 参 加 者: 24名(内、尚絅6名、西南学院大学1名、大学コンソーシアムひょうご神戸10名ほか) [Ⅲ] 11月4日(月) 長田区フィールドワーク、学生意見交換会 実施場所: 神戸市長田区 目 的: 阪神淡路大震災とその後の復興を学び、地元の活動や防災・減災の取組について考える。また3日間の学びを振り返り、これから大学生に何ができるかを共に考える。 内 容: ①長田区の震災について学び、当時どのような状況であったのかフィールドワークと語り部のお話から学ぶ ②学生意見交換会 参 加 者: 17名(うち、尚絅6名、西南学院大学1名、大学コンソーシアムひょうご神戸5名ほか)





事業名	大学間連携 合同ボランティア学習会(秋のバスツアー合同学習会)
実施日	令和元年11月17日(土)
実施場所	名取市関上地区
目的	①被災地(名取市関上)を視察し、語り部のお話を聞くことで「あの日あの時」と震災から8年半後の状況を知る。 ②関上に住む住民の方と交流しながら、これまでの関上についてや現在の心境をお聞きする。 ③大学生に求められる支援活動のあり方(地元・遠方/直後・長期)を考える。
内容	東日本大震災時に津波の被害が大きかった関上地区を訪問し、被害の様子や震災後の変化を視察した上で、現地の語り部のお話を聞いた。また住民さんと交流し様々な話をお聞きすることで、現在地域や住民の方が抱えている課題を知り、今後それぞれの専門的な学びや研究につなげることとした。
参加者	57名(内、尚絅11名、東北大41名ほか)



ボランティアチームTASKIの活動の移り変わり —2011～2019—

東日本大震災から8年以上が経過した今も被災地での活動を継続しているTASKI。
年を追うごとに内容はどう変化してきたのか、あらためて振り返ってみました。

2011年3月11日 東日本大震災発生

とにかくできることを

学生自らが被災地に赴き「名取市災害ボランティアセンター」のスタッフとして活動開始。閉所される8月まで支援活動を行なう。その後、名取市内の仮設住宅にて活動を行なう。

当時の学生の「とにかく笑顔を取り戻したい」という強い思いから、「名取市災害ボランティアセンター」のスタッフとして被災地に関わり、その後避難所から仮設住宅に移られた皆さんの日常を取り戻すための支援活動を行ないました。



出所：東日本大震災アーカイブ宮城（名取市） 提供者：名取市

ボランティアチームTASKIが誕生し、名取市内の仮設住宅にて、学生主体のイベントを行なうようになりました。当時は愛島東部仮設（関上で被災した方の仮設住宅）、植松入生仮設（様々な地域から来た方の仮設住宅）でのイベントが多く、カラオケ、体操、映画上映会、住民の方と食事を作るなど、様々なイベントを行ないました。また、学生は学都仙台コンソーシアムの「復興大学」という講座に参加するなど震災を学ぶ講座にも参加しました。



なんとか元気になってほしい！

学生ボランティアチームTASKI誕生！
名取市内の仮設住宅や集会所での体操や歌、学生主催のイベント活動（クリスマス、ひな祭りなど）で交流し、楽しい時間をつくるお手伝い。

2012

2013

一人にならないで！

仮設住宅支援の継続。おしるこづくり、書初め、焼き芋イベントなどの活動に加えて、畑作業、花壇作りなどを行なう。

一人で閉じこもらずに、集会所や畑などに顔を出してほしいという思いで、短時間でも回数を重ねた訪問で交流を続けました。



このまま同じ活動を続けてもいいか立ち止まった時期もありましたが、住民さんに寄り添った仮設住宅での支援活動を継続しました。



笑顔になってほしい！

学生主催のイベント活動だけではなく、仮設自治会の祭り支援など、より“支える”を意識した活動を実施。集会所でサークルができたり、仲良しグループができたりと住民さんたち自身がダンスや歌を楽しむなど主体的に活動することが増え、それを「お手伝いする」、「支える」という役割へと徐々に変化。

2014

少しずつ仮設住宅を出る住民さんが増えたり、次の住まいの話が出てくるなど、これからを考えるようになりました。仮設住宅を出た後の夢や不安に寄り添いつつ、

支援の形も変化し始めてきました。

夢を力に！

ひとつひとつの仮設住宅への支援に加えて、仮設住宅間交流の場を設定するなど、仮設住宅を出た後の新しいふるさと、これからのコミュニティ形成への支援活動を実施。

2015

2016

新しいふるさとへ…

仮設住宅から復興公営住宅等へと住民さんの住環境の変化に伴い、被災地の課題も変化。改めて“寄り添い”の大切さをチームで再確認し、長期的視野に立った支援について考えるように。

新しいふるさとへ向け、カラオケ・演芸大会などのイベントを通して仮設間交流でのコミュニティ形成への支援活動を実施。住民さんが仮設住宅を出て、復興公営住宅へ引っ越すにあたって“寄り添い”の大切さをチームで再確認。住環境の変化にともなう被災地の課題に取り組みました。



イベントを通しての直接的な被災地支援は少なくなりましたが、他大学と協力して、共に被災地を訪問したり、「復興とは何か」、それぞれの考えを共有しました。



やっぱり つなげる つたえる つづける

仮設住宅の自治会や他の支援者の方々と協働しながら、住民の皆さんの“自らの復興”を支援。一方で次世代に震災を伝えるための学生の学び直しや、さらなる他大学の活動サポートも行なう。

2017

2018

復興ってなんだべ？

これまでの“寄り添い”支援を継続しながら、開上の新しいまちづくりを応援。住民交流会などに参加し、新しい団地のコミュニティづくりのお手伝いを行なう。

これまでの活動経験を活かし、次世代や他の地域についていく活動も継続して行ないました。さらに神戸を訪問し、阪神淡路大震災の経験について知るなど他県の災害や経験、教訓、課題にも目を向け、自分たちの今後の活動について考えました。



新しい町づくりが進み始めた開上で住民さんと共に活動することで、改めて“寄り添い”を続けることの大切さを実感しています。現在の生活に不安を覚える住民さんも少なくはありませんが、「住民さん自身が前に進んでいく」ことをサポートしていきます。



今の開上見てけさいん！

町内会が発足し、住民さん主催のイベントが行なわれるようになり、5月には地域と行政・企業・学校などが連携した“開上地区まちびらき”が開催された。住民さんに寄り添いながら被災地の今の姿を知り、伝えていく活動を継続している。

2019



ボランティアチームTASKIの活動報告～まとめ

これまでの仮設住宅支援活動を通して見てきた状況から、わたしたちができることは何か。



2011年3月11日に発生した東日本大震災については、これまでニュースや新聞でたくさん報道されてきました。ご存知のとおり、宮城県名取市閑上(ゆりあげ)は被害の大きい場所のひとつでした。

また、震災前の写真を見るとたくさんの家並みや、穏やかな風の海の様子など、環境、状況は違っても、皆さんが住んでいるところと何も変わらない、**たくさんの人々の営みがそこにあったこともわかります。**

名取市では5月に「閑上地区まちびらき」がおこなわれ、住民の皆さんの新しい住まいでの生活が始まりました。言うまでもなく復興公営住宅は、“仮設”つまり“仮の住まい”ではなく、これからずっと住み続ける“自分の家”ということです。

被災された住民の皆さんは、震災直後は体育館などでの避難生活をし、その後、長い方は6年以上もの間、仮設住宅で生活されてきました。住民の皆さんの中には、辛い時期を一緒に乗り切ろうと、お互いに声をかけあい、励まし合いながら暮らされている方もいました。

尚絅学院大学の学生たちも、そのような交流の場をつくるための支援を続けてきました。

さて、ようやく始まった新しく、広く、きれいな自分の住まいである復興公営住宅などでの暮らし。しかし、名取市では一部を除き、集団移転(同じ町の住民さんをそのまま同じ地区に移転させること)ではなく、抽選によって住む場所が決定しました。お隣さんを決めることはできません。

もう一度、ゼロからのコミュニティづくりが始まったのです。

さらに、高齢者率も高く、実際に、復興公営住宅に移ったとたんに、家から出なくなってしまう方、体調を崩された方、亡くなってしまった方もいらっしゃいました。一方で住民の皆さんで町内会を結成し、新しいふるさとづくりを始めようと力を尽くしている方々もいらっしゃいます。

このような状況が見えてきた中で、私たち大学生にできることは何かを考え、活動を行っています。

「変わらない寄り添い」「新しいコミュニティ形成のお手伝い」 「協働・学びで次世代へつなぐ」

東日本大震災から8年半。宮城県名取市関上（ゆりあげ）地区では、復興公営住宅や新しい家での暮らしが始まり、2019年5月にはまちびらきのイベントが行われるなど、嬉しいこともある反面、コミュニティづくりをどうするかという課題があります。

一方で、“住民の皆さんの自らの復興を妨げない”支援

のあり方とは何かを考え続けています。寄り添いの活動を継続しながら、新しい環境での住民さん同士の交流のお手伝いや、地元支援団体や他大学の皆さんと共に力を合わせ、学びながら、次につながる活動を行っています。



関上の復興公営住宅や新しい集会所において、住民の皆さん自身による**新しい町づくり**が進んでいます。

支援のあり方やボランティアの関わり方が変化の中で、まだまだたくさんの**力**や**アイディア**が求められることも…



今、私たち大学生にできることは何…？ 次へと活かせることは何…？

活動報告は
こちら！

尚綱学院大学HP <http://www.shokei.jp/institution/extension/volunteer/>



TASKI Facebookページ

<https://www.facebook.com/shokei.volunteer.station/>



Twitter アカウント

https://twitter.com/TASKI_SHOKEI

本事業は、宮城県「復興大学支援事業補助金事業」の助成を受けて実施しております。

発行日: 2020 (R2).3.31

発 行: 尚絅学院大学 交流推進部

宮城県名取市ゆりが丘 4-10-1

TEL/022-381-3315 (大学事務室 連携交流課) TEL/022-381-3484 (ボランティアステーション)